



# ライズ通信

## RISE

リヴォルヴ学校教育研究所  
REVOLVE Institution  
for  
School Education

第1号

2002.2月  
発行



## ライズ学園の一年を振り返って

### 不登校クラスの子ども達

「オノムー！ 見て、見て！」  
ある日の午後の公園。男の子が大声でさけぶ。  
「それでね。私もいろいろ考えたの」  
私はベンチに腰掛けて、女の子の話に耳を傾けて  
いる。  
「もう、オノムー、見てた？ 今、じょうずに飛べ  
たんだよ」  
「見てた。見てたよ。すごいじゃないか。今度は  
さあ、一人ずつ順番に入って、3人で飛んでござ  
らん」

小学校3年生から中学3年生までの男の子が、縄  
の回転に合わせて、ぴよこん、ぴよこんと飛び跳ね  
る。初めて教室を訪れたときの彼らの不安げな表情  
が、ふと思ひ浮かんだ。

「じょうずになったね」  
私のつぶやきに、女の子がやさしく微笑み返す。  
彼らはみな、昼間の不登校クラスの子ども達だ。

ようやく桜のつぼみが膨らみ始めた頃、お父さん  
やお母さんといっしょにバーベキューに出かけた。  
それまであまり食欲を見せなかった子ども達が、ほ  
とんどすべてを平らげた。

磯遊びにも出かけた。カニや小魚をつかまえよう  
と、夢中になった。私たちが主催した不登校シンポ  
ジウムでは、駐車場の入り口で誘導をしたり、託児  
室で小さな子の世話をしてくれた子ども達もいた。

秋にはナシ狩りに出かけ、筑南クリーンセンター  
(ゴミ焼却場)の見学にも行った。老健施設へボラ  
ンティア体験にも出かけた。

スタッフとともに、数学検定3級に挑戦。見事、  
合格した子もいる。先日は、また3人の中学3年生  
が漢字検定3級に挑戦した。NHK学園や水戸南高  
校への見学にも出かけた。



衣装しています！ ハロウィンパーティーです。

### 子どもは化ける

ライズ学園には、様々な子ども達が通ってきて  
いる。昼間のクラスには通いたくないと、英語教  
室にだけ通ってきている子もいる。

しかし悩みを抱えているのは、何も不登校の子  
ども達だけではない。A君はいつも教室に入るな  
り、学校での出来事など話し出す。

「いやあ、まいったな。今日は漢字のテストが  
あったんだ。でも今日は一発で合格した」

「やったね」  
「でも、Bは満点だったらしい。なんか急にでき  
るようになったんだよな。まいっちゃうよな。こ  
の間の英語のテストもすごくできたみたいだし」

B君はA君と同じ中学1年生。最初に教室に通  
い始めた頃はすっかり自信をなくして、  
ちょっと間違えただけで涙ぐむようなこともあ  
った。今でも、文字は乱雑だ。

「自分のこと、ダメだとか思ってない？ いいか  
い。自分のことを、バカだとか言うのはやめよ  
う。君は決してダメじゃない。ほら、こんなに力  
がついてきてるじゃない。少しずつ、少しずつ、  
君は君のペースでいいんだから」

やがてB君は、グッと点数をアップさせた。

(2 ページに続く)

<b>目次</b>	ライズ学園の一年を振り返って	1, 2, 5	ライズ英語教育セミナー	4
	ライズの活動紹介 ライズのあしあと	3	地域立学校を目指して 地域ポータルサイト構想	5
	不登校シンポジウム	4	ライズ学園に通う子どもたちの声	6
	ライズ学園のクリスマス	4	生徒・スタッフ・会員募集のお知らせ	6

(1 ページから続く)

人にとって、周囲から認められるということはとても大切なことだが、自分自身を認められるようになるということはもっと大切なのかもしれない。B君は変わった。

「Thursday と Saturday は同じじゃん。ほら、どっちも ur でア～て発音する。この間やった turn と同じだよ」

B君は、さりげなくA君に手をさしのべる。

「いいね。先生の出番がなくなっちゃうな」

私の言葉に、B君は「まあね」と胸を反らした。

そんな彼の変化が、約1年近く遅れて教室に通い始めたA君にも、良い刺激を与え始めている。

「おれ、今回のテストは自信があったんだ。勉強したもん」

今、A君も急速に力をつけ始めている。「あー、だめだ。わかんねえー」という口癖も、ずいぶん出番が少なくなった。

### がんばる ということの意味

C君はちょっとわからなくなってくると、わざと目立つようにあくびをする。昔の私なら、ムツとして「なんだその態度は！ だからダメなんだ」と言ったに違いない。

私はがんばっている子ども達を見るのが好きだ。しかし「がんばる」とは、一体どういうことなのだろう。C君はあくびをすることで、「わからないんじゃない。できないんじゃない。眠くて話を聞いてなかっただけだ」と、自分を納得させているのかもしれない。大口を開けて生あくびをする彼の表情は、ひどく不安げでもある。そんな彼の表情の中に、私は彼の心の傷を見る。

貧しい国に暮らす子ども達は不幸で、豊かな日本に暮らす子ども達は幸せだ、という人がいる。そして大抵そのあとには、「今の日本の子ども達は甘えている」というような言葉が続く。

ライズ初のもちつき大会、みんなであつんだヨモギを入れたおもちもおいしかったね。



ある日野外活動に出かけたときに発見したキノコ  
毒性の強い「テングタケ」だったらしい

しかし日本の子ども達は、本当に幸せなんだろうか。教師を辞める直前、ひょっとするとこれが最初で最後かもしれないと思って、家族で海外旅行に出かけた。決して豊かだとはいえない国。観光コースを外れて裏町に足を伸ばすと、そこには親の仕事を手伝う子ども達の姿があった。粗末な家、みすばらしい衣服。しかし彼らの瞳は、子どもらしい輝きを失ってはいなかった。テレビで終戦直後の日本を記録した映像も見たけれど、そこで暮らす子ども達は今の子ども達よりもずっと生き生きとしていた。

今の日本の子ども達が幸せだなんて、大人が勝手に決めつけただけのことじゃないだろうか。物質文明の歪みの中で、子ども達は深く傷つけられているのじゃないだろうか。

私は思う。不登校を選択をする子も、生あくびをする子も、机の上に足を放り投げて授業を受ける子も、みんな一生懸命に生きているんだ、と。

### 自信

先日はあるスタッフから、私が自信にあふれているように見える、と言われた。たしかに、自信がなさそうにはしてられない。

教師時代、研究会などで誰かが提案授業をすることになると、決まって何人かの先生が、「お見せできるような授業じゃありませんから」などと言う。私はそれが嫌だった。謙遜のつもりかもしれないが、人に見せられないような授業って、それじゃ子ども達に対して失礼だ。

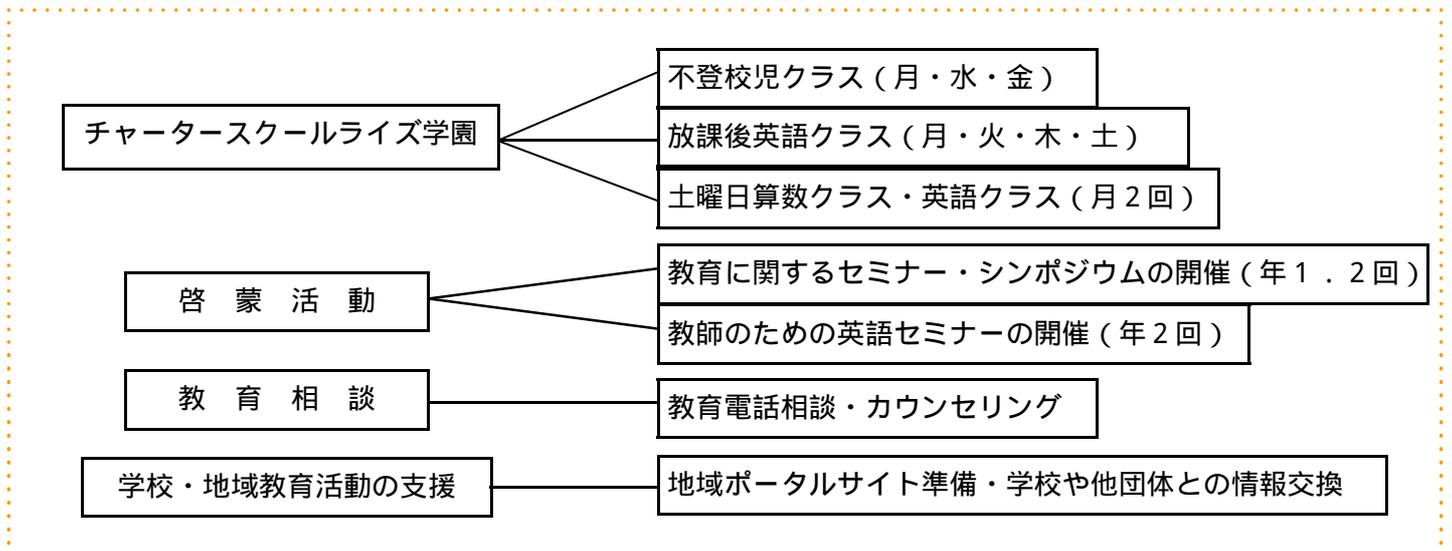
……などと力んでしまったが、本当のところ、私もあまり自信はない。多くの子ども達とふれ合えばふれ合うほどに、わからなくもなる。だが、それでいいんだと、自分に言い聞かせている。授業をすることはできても、教え込むことはできない。学ぶのは子ども達自身だ。問題はいかにして、「君は君でいいんだ」というメッセージを送り届けるか。それさえできたなら、子ども達は自身の力で伸びていく。

もちろん教え方についても、研究は重ねていかな

## ライズの活動紹介

子ども達にもっと元気になってほしい。だけどそのためには、お父さん、お母さんや先生はもちろんのこと、コミュニティ全体が活性化されることが必要です。

ライズ学園の運営の他にも、私たち様々な活動に取り組んでいます。



## ライズのあしあと 今までの活動をまとめてみました

平成12年7月	代表を中心に有志が集まり会を発足
平成12年8月	第1回英語セミナーを開催 参加人数約50名
平成12年8月	筑波大学との共同研究「学習障害児に対する英語の学習支援」に参加
平成12年11月	保護者や教員を対象とした電話相談を開始
平成12年11月	不登校児を対象とした日中クラスおよび、学習が遅れがちな子どもを対象とした算数・英語教室「ライズ学園」をつくば市谷田部で開始
平成13年2月	つくば市立病院 臨床心理士 石橋直子先生を招いて勉強会を開催「心理の立場からみた不登校」
平成13年2月	第2回英語教育セミナーを開催つくば、水戸の2カ所で80名が参加
平成13年3月	茨城県知事より特定非営利団体として認証
平成13年4月	ライズ学園日中クラスを週3日に拡大
平成13年4月	学習が遅れがちな子どものための英語教室を放課後と土曜日に開始
平成13年6月	シンポジウム「不登校に学ぶ」を開催 参加者約400名
平成13年8月	つくば市北部養護教諭部会が教室を視察
平成13年8月	第3回英語セミナーをつくばで開催 教育評価や子ども達のつまずきについても着目した参加者40名
平成13年10月	石岡青年会議所に招かれ、地域の教育参加等について講演(小野村)
平成13年12月	竹園高校進路セミナーにて講演「今、なぜNPOなのか」(小野村)
平成13年12月	第4回英語セミナーを水戸で開催参加者25名
平成14年1月	県立医療大にて講義(小野村) 「不登校や障害のある子ども達のための地域における教育支援～その考え方と実践～」

## シンポジウム 不登校に学ぶ～東京シューレの子ども達を招いて～

ライズでも「チャータースクールライズ学園」の設立を前に、勉強のためにいろいろな施設へと足を運びました。そのとき、「東京シューレ」というフリースクールにも見学に行きました。子ども達の生の声を聞いてびっくり。世界のフリースクールを招いて会議を開いたり、ユーラシア大陸を横断したり。自信に満ち、大人を前に堂々と話しています。「この子達は自分の足で歩いているな」と感じました。

しかしそんな彼らも不登校を始めた頃は、相当な悩みを抱えていたとのこと。「この子たちが特別なのではない」と感じると同時に、つくばの皆さんにもぜひその声を聞いてほしいと思い、このシンポジウ

ムを開きました。

第1部では、当時の思いを東京シューレの若者3名に語ってもらいました。「試行錯誤の末に、今のままの自分でいいんだ、と自分を受け入れることができるようになったことで、前を向いて生活できるようになった」「なぜ不登校、と聞かれて、自分でもよく理由がわからなかった。理解しようとするよりも、認め合うことが大切」という言葉が心に残りました。

第2部では、教育現場の方や保護者の方の意見交換が活発に行われました。

このシンポジウムの模様は、ライズのホームページでも見ることができます、是非一度ご覧ください！

## ライズ学園 100本のクリスマスツリーとクリスマス会

ライズ学園日中クラスには現在11名の小・中学生が通っています。ライズの授業は選択式。自分のやりたい教科を選択して自分で時間割を組み立てます。国語や数学の勉強以外にも、絵画造形、スポーツに調理、校外学習やパソコンを使った授業など、いろいろなことに挑戦しています。

でもやっぱりイベントがあるとみんなの目のかがやきが違います。昨年12月にはつくばアーバンガーデニング主催のイベント「つくば100本のクリスマスツリー」に参加しました。

ライズでは2本のツリーを作成しました。初めは「あんまり目立たなかったらどうしよう」などと考えていましたが、いざ飾り付けをしてみると、とてもにぎやかなツリーに仕上がりました。



なんと個性的なツリー！タイトルは「まつびっくりと仲間達」「ウルトラサンタのおくりもの」

## セミナー 英語教師のための「ライズ英語教育セミナー」



長勝彦先生のコミュニケーションを重視した授業のレクチャー。すぐに授業で活用できるヒントが盛りだくさんで受講者も真剣です

ライズ英語教育セミナーには、昨年の12月末までの計4回で、約200名の参加者がありました。英語を学ぶセミナーではなく、教科指導について学ぶセミナーなので、受講者はほとんどが中学校や高校の英語の先生です。県内各地域はもちろん、遠く大阪や北海道から参加された先生もいました。

自分で受講料を払って参加しているという意識の違いからでしょうか。毎回、出張命令を受けていく研修とはちょっと違った雰囲気があります。「今までに、こんなに真剣に研修を受けたことはなかった」「一種のカルチャーショック」などといった感想も寄せられていました。

永年英語教育の現場で活躍し、優れた授業者に贈られる「パーマー賞」を受賞した日本女子大学の長勝彦先生や筑波大名誉教授の島岡丘先生、同じく大友賢二先生らをお招きし、音声指導のポイントや評価の在り方、つまづきがちな子ども達への指導の工夫についてお話いただきました。

## 地域ポータルサイト

「教師と子どもの学校」から「地域社会の中の学校」へ！

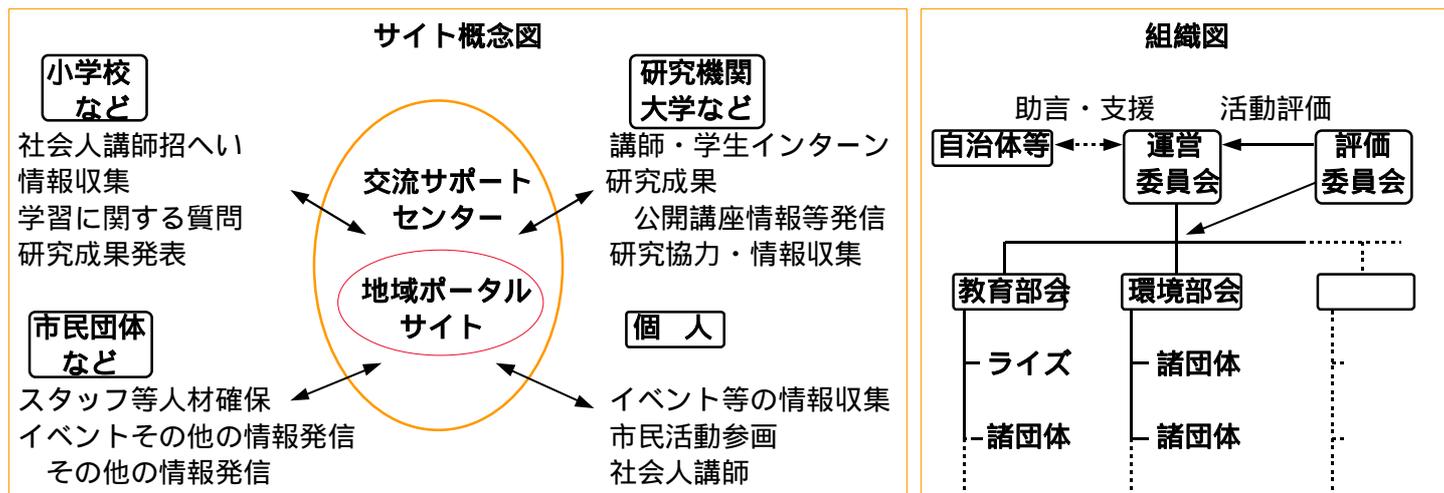
大切な子ども達の教育が人任せで良いはずがありません。コミュニティーの崩壊、地域内経済循環の衰退は、これからの教育を考える上でも見過ごすことができない重要な問題です。

現在、茨城県にはおよそ80の特定非営利活動法人があり、ボランティア団体にいたってはつくば市内だけでも200以上の団体が存在するといわれています。私たちは他団体とも協力し、つくばを中心とした諸

団体が相互に連携し、活動のすそ野を広げる場としての「地域ポータルサイト」を検討しています。インターネットを利用した市民伝言板とも言えるものです。

来年度からは、「総合的な学習」も正式にスタートします。ライズとしては、つくばやその近接地域に暮らす人々と学校教育の現場をむすぶ、人材バンク的な要素を取り入れたシステムにと、考えています。

詳細は、ホームページをご覧ください。



(2 ページから続く)

もちろん教え方についても、研究は重ねていかなければならない。研究所を名乗る以上、ライズ学園の実践の中から得られたものを、学校教育の現場にフィードバックできるようになりたいと思っている。

### チャータースクール：小さな地域立学校を目指して

2月11日、建国記念の日。岡野さんという方のお庭を借りてのもちつき大会。不登校クラスの子ども達や保護者のみなさん、スタッフ、それぞれの友人知人を合わせて何と70人近くが集まった。私たちが目指す「小さな地域立学校」に、また一歩近づいたような気がして嬉しい。

しかし、ライズ学園はまだまだ発展途上。不登校の子ども達だけでなく、様々な理由から学校にうまく適応できずにいる子ども達のための支援体制を、もっと充実させたいと思う。

質の高いサービスを提供しようとするれば、当然経費がかさむ。ほとんどのスタッフに無償ボランティアでの参加をお願いし、専任のスタッフにもほんのわずかのお礼しかできないでいる状況の中で、市の助成金公募にも応募したが、「市がすでに行政として取り組んでいるため、補助事業としては適当ではない」という判断。

アメリカでは、LDやADHDの子ども達の支援に、チャータースクールが効果を上げているというが、日本での道はまだ険しい。

今の学校がダメだと言っているのではない。しかし今の教育のシステムは、ある面において優れている反面、問題点も抱えている。あんな学校もあれば、こんな学校があってもいいのではないか。

少しずつ理解は広がっている。行政サイドにも人はいて、真剣に考えてくれている。まだまだ努力が足りない、気を引き締めている。

その一方で、わずかの間によくぞここまで、とも思う。これも様々な形で支えてくださっているみなさんのおかげ。心からの感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。そしてこれからも、ご支援をお願いいたします。

NPO法人  
リヴォルヴ学校研究所(ライズ)

二の宮事務所  
〒305-0051  
つくば市二の宮4-8-3  
1-404  
電話/FAX  
0298(56)8143  
E-mail  
rise@mail1.accsnet.ne.jp

ライズ学園 谷田部教室  
〒305-0861  
つくば市谷田部2983  
(アラキヤさん2階)

ホームページも  
ご覧ください!  
<http://www.rise.gr.jp>

## ライズ学園に通う子どもたちの声

つくば市 15歳 女子

私がライズ学園に来て良かったことは、たくさんの人と出会えたことと、たくさんの方のことを学ぶことです。ライズ学園の子ども達は小学生～中学生で、年齢をあまりとわないので、つきあいやすいです。学校に行っていないので、人づきあいがまるでない私にはとてもいいきかいだと思ってます。スタッフさん達もみなやさしくていい人ばかりです。私の悩みや相談事につけてくださって、私によいアドバイスをくれます。こういったアドバイスからいろんなことを学べるので自分にプラスになると思っています。

茎崎町 15歳 男子

ライズ学園に通うようになって、1年以上が経ちます。学校に行かなくなって、初めて「なぜ学校に行くのか」という疑問がでてきました。登校している時、そのことについて考えてみても出てくるのは「行かなきゃだめ」だけで、行くのが当たり前になっていました。ライズの方々との出会いや、様々な経験を通して、そういった常識から抜け出すことが出来、学校に行かない自分に対して自信を持てるようになりました。



## 英語・算数教室 生徒募集のお知らせ！！

子ども達は思わぬところでつまづいています

例えば小文字のbとdの区別がよくできなくて、英語が苦手になってしまう子がいます。事実、天才といわれた人の中にも、鏡文字(左右が逆転した文字)を書いたり、ある面では非凡な才能を持っているのに、簡単な計算ができなかったり、文章を読んだりすることが極端に苦手だった人がいます。

ライズの教室では、子ども達一人一人の学習の特性に着目しながら、じっくりと少人数で学びます。

じっくり学びたい子ども達のための英語教室

二の宮教室 (小学5年生～中学3年生)

谷田部教室 (小学5年生～中学3年生)

月会費 6,000円～9,000円

谷田部教室では、つまづきやすい子ども達のための算数・英語教室も行っています。

## いっしょに活動してみませんか

私たちの活動に参加してくれるスタッフも募集中です。学園スタッフに事務局スタッフ。参加の仕方月々に1.2回から様々です。詳しくは、二の宮事務所までお問い合わせください。

## 正会員・賛助会員募集！！

ライズの目的に賛同し、活動にご協力いただける個人または団体を、募集しています。

いかに非営利団体とはいえ、適正数のスタッフや教材教具を確保し、サービスの質を確保するためには、それなりの経費がどうしても必要になります。ライズ学園は新しいタイプの学校であるため、公からの援助もまだほとんどありません。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

年会費

正会員 個人 5,000円

団体 10,000円

賛助会員 個人1口 3,000円 1口以上

団体1口10,000円 1口以上

郵便振込みの場合

郵便局 記号10600 35657951  
特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所

銀行振込みの場合常陽銀行

研究学園都市支店店番104

普通 1822778

特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所  
理事長 小野村 哲(オムラツシ)